



今月の話題：見通しのつかない行動自粛要請の弊害が顕著になってきたように思われる。「不要不急の用」ばかりの暇人がそんなにいるわけではない。皆さん、必要、急用で日々を過ごしているのである。基礎的な活動をやめると、次の始動に時間がかかり旧に復するのに倍旧の努力が必要となることはオリンピック出場の選手達の苦勞が伝えられることでも判る。まして、高齢期の我々においては猶更だ。心すべし。(伊藤誠三)

□ **本部便り：**(金森捷三郎 記)

○次回拡大理事会：8月31日(火) 18:00~ (zoom)

□ **建築部会：**(岡本直 記)

・7月3日に発生した熱海市伊豆山地区の土石流災害は盛り土の影響が指摘されている。7月29日現在で22名の死者が出ており、「上流にある砂防堰堤をはるかに超える量の土砂が流出して家を押す危険をはらむ場所は全国にいくつもある」と専門家は警鐘を鳴らす。文京区は台地と低地が混在し、がけ地が多く存在しており、最近、区民のがけ地の安全性に対する相談が増えてきているようである。区よりサーツへの協力要請があり、建築部会でいくつかの相談に対応している。今後の課題でもあり、まず文京区のがけ地や坂の現状を頭に入れたらと思う、散歩を兼ね、あちこち歩き回ると思わぬ発見がある。都立駒込病院の玄関わきに縄文時代の貝塚遺跡がある。駒込病院は本郷台地上にあるが、その先は動坂を経て不忍通りの低地になり、さらに上野の台地に繋がっている。従って両方の台地に挟まれた低地は古くは川が流れていて、その沿岸に集落が形成され、現在の駒込病院付近に貝塚の跡が残っていたものらしい。駒込病院はコロナ患者受け入れの指定病院であり、医療関係者が多忙を極めている。

□ **戸建住宅部会：**(阿部市郎 記)

・現在戸建住宅部会は会議室とズーム参加による部会を毎月実施している。その他事業にかかわる会議等は随時実施。7月15日16時~17時30分・戸建住宅部会を実施。松村先生を含め9名が参加。

1. 技術支援事業 ・タウンハウス技術支援
・GT南桜井タウンハウス大規模改修支援：全22棟のうち3棟10戸は6月末で完了し、現在3棟12戸が工事中。梅雨の季節で雨による工事遅れはあるが、全体として工期は順調に推移している。

・ウッドランド辰巳台第4回中大規模改修支援：工事状況は現在、第6期(全10機)を施工中で、約半分が終了した。予定では、8月29日完了予定。

・タウンハウス稲毛：長期修繕計画支援 7月中旬に各戸の現状判断のための各戸アンケート調査の項目提案。

2. 調査研究事業 ・「CLT建築物等の設計者育成事業」
…CLT建築 企画・開発・設計者等への普及促進委員会2021(第1回)・委員長 松村秀一先生で開催された。

・令和3年度林野庁補助事業・「大径化した原木等を生かした利用の拡大」補助事業

・報告 令和3年度事業の柱となる2課題について・構成材料拡充・設計合理化(CAD改定)…8月初旬を目処に、HOWTEC、住宅性能評価センター協議を予定。

3. 令和3年度に新たに取り組む事業・研究等の検討
・オンライン寺子屋第5回テーマ「戸建住宅の耐震」について、対応検討中。

4. 松村秀一先生談話…ほぼ毎回部会に松村先生にズーム

参加頂き、タイムリーな情報交えて談話を頂いている。
5. 8月部会は休会とする。以上

□ **集合住宅部会：**(小畑晴治 記)

・いつか来た道！東京の都市再生(という名のビル建替)が止まらない！昨年来の新型コロナで先が見えず、オフィス床の空室率が6%を超える状況下、築後50年程度の超高層オフィスビルが次々に建て替わる流れが止められない。松村先生の近著『建築の明日へ』(H2021.7)でも振り返って解説されているが、1930年代にNYマンハッタンで建設された100棟以上超高層ビルは、例外的に建替えられた1棟を除き建替えられていない。

浜松町駅の両側の超高層ビル3棟、前川国男の東京海上ビル等の超高層建築だけでなく、新宿西口では駅広を囲むデパート群が広場ごと再開発され230m級の建物に建替わる工事が始まった。デパート側は建物用途は未定！と公表している有様。いまこういう事業に莫大な補助金が投入されて、本当に日本の将来があるのかと感じる。

未だに、築50年程度の団地の建替えを誘導するような都市系！コンサルの暗躍と同類だが、今、日本が危ない！

□ **マンション管理組合支援事業部：**(丸山和郎 記)

・東京オリ・パラが始まり、新型コロナワクチン接種とインド株コロナ感染とのせめぎ合いの中、マンション管理組合支援活動も下半期に入り、年内終了予定にある案件については、調査や管理組合理事会との面談など、行動日程が限られた条件下にあって、その対応が過密になっています。当月7月度まで、支援継続中の5物件のうちST武蔵野、CFすずかけ台駅前、H上鷲宮、SV戸塚の4物件が順調に、或いはかなりタイトなスケジュールで動いています。

先月同様、新規受託物件の1件目はPH本郷真砂で、調査結果報告会がコロナ禍影響で4か月経った今も開催できずにいます。2件目がF春日部式番館(リピート物件)で6月上旬に契約済み、7月中旬に劣化診断調査に着手しました。

また、SV戸塚については、「長期優良住宅化リフォーム推進事業」に大規模修繕工事の実施設計を抱き合わせる形で新たな契約を結ぶことになりました。

そのほか、CFすずかけ台駅前、および品川区のA五反田からは特定建築物等定期調査報告業務への受託対応が求められています。

◇公的補助事業を利用した大規模修繕工事の管理組合支援活動については前号報告の通りです。

□ **建築技術誌9月号(8月17日発売) サーツ欄掲載記事**

・サーツニュース：坪内 信朗「どう動く、温室効果ガス排出削減」

・サーツ寺子屋「SDGsとサステナブルな建築・社会」

・東西南北 第2回 吉田卓郎：「建築のライフサイクルコストを巡って」

□ **余滴：**疫禍耐ゆ行く人励ます蝉しぐれ まこと